

# こんにちは

2023年11月  
vol. 36

病院と地域をつなぐ情報誌

## 旭中央病院開院70周年特別号



### 開院70周年を記念し、幅広い関係者を対象に様々なイベントを実施しました

写真左上:記念式典(10月14日、東総文化会館):医療・行政・大学関係者、地域住民など約600人が参加

右上:高校生職業体験(7~8月、当院):地元高校生約300人が参加

左下:第5回病院まつり(8月6日/9月3日、おひさまテラス):2日間で約1,000人の地域住民が参加

右下:記念CPC(臨床病理検討会)(9月23日、当院):院内外の医療関係者145名が参加



### 目次

#### 旭中央病院開院70周年特別企画

- ▶ 病院完成への道  
~旭中央病院のあゆみと目指すもの~【後編】 2
- ▶ 明日の地域医療を担う医療従事者座談会 6
- ▶ やさしい医学講座 第35回  
AYA世代がん患者サポートチーム 13

- ▶ かかりつけ医を持ちましょう 第33回  
茨城県神栖市・永木外科胃腸科医院 14
- ▶ 健康ノート  
予防医学 ~その3~ 15
- ▶ 自治体立優良病院として表彰、ほか 16

# 病院完成への道

## 旭中央病院のあゆみと目指すもの

後編

21世紀に入り、当院を取り巻く環境は長引く経済の停滞や社会保障費抑制政策、少子高齢化の進展、多発する災害や新興感染症の脅威など厳しさを増していきます。このような中、当院は理事長、病院長のリーダーシップのもと、職員が一丸となってさらなる地域医療の充実を実現してまいります。

| 成熟期   |  |   |  | 西暦                       |
|---|--|---|--|--------------------------|
| 2004  | 2003   | 2002  | 2001   | 和暦                       |
| 平成16  | 平成15   | 平成14  | 平成13   | 旭中央病院の出来事                |
| 地域医療連携センター開設<br>PET画像診断センター開設<br>認定看護師(日本看護協会認定)当院第1号 | 開院50周年(職員数1751人、うち医師179人)<br>内科に糖尿病代謝内科を開設<br>救急救命科開設(専任医による診療開始)<br>地域がん診療拠点病院(現・地域がん診療連携拠点病院)に指定 | 内視鏡手術を導入<br>地域リハビリテーション広域支援センターに指定<br>医療安全管理推進室開設 | 循環器センター開設<br>第1回市民健康講座開催                                   | ●日本・世界の出来事<br>●医療に関する出来事 |
| ●新医師臨床研修制度開始…<br>臨床研修の必修化<br>●新潟中越地震(M6.8)            | ●健康増進法施行。受動喫煙防止を義務づけ   | ●SARSコロナウイルスによる感染症(重症急性呼吸器症候群)が世界的に流行(2002~4年)    | ●聖域なき構造改革<br>●ドクターヘリ事業が千葉県で開始<br>●第4次医療法改正施行：一般病床と療養病床の区分等 | 事業管理者/理事長                |
| 村上 信乃   |  |   |  | 病院長                      |
| 村上 信乃   |  |   |  | 病床数                      |
| 956(一般700・感染6・精神250)                                  |  |   |  |                          |



予防医学研究センター(人間ドック)



市民健康講座



第2代病院長  
事業管理者  
村上 信乃

### 健康寿命延伸に向けて 一市民健康講座、予防医学研究センターの取り組み

2000年にWHO(世界保健機関)が「健康寿命」の概念を提唱。以降、寿命だけでなく健康寿命(健康に生活できる期間)をいかにして延ばすかに関心が高まっていきます。当院で現在まで続く「市民健康講座」を開始したのもこの頃(2001年)。また当院併設の予防医学研究センターでは、健診機能認定施設(日本人間ドック学会・日本病院会)として人間ドック基本検査の他に、豊富なオプション検査を提供し、予防医学を通じた健康なまちづくりを推進しています。

### 旭中央病院 基本理念 すべては患者さんのために

私たちは地域の皆さまの健康を守るために、常に研鑽に努め、医学的にも経済的にも社会的にも適正な模範的医療を提供します



## 成熟期

| 2011   | 2010   | 2009   | 2008  | 2007   | 2006   | 2005  |
|--|--|--|---|--|--|---|
| 平成23   | 平成22   | 平成21   | 平成20  | 平成19   | 平成18   | 平成17  |
| <p>新本館竣工<br/>患者図書室「ほろびたるこころ」開室</p>   | <p>入退院センター設置<br/>TQM (Total Quality Management) センター設置</p>       | <p>放射線治療棟竣工<br/>神経精神科訪問看護ステーション「こころとくらしのケアセンター」を開設(飯岡診療所2F)</p>  | <p>開院55周年(職員数1838人、うち医師248人)<br/>DPC(診断群分類別包括評価)対象病院<br/>内科に総合診療内科を開設<br/>化学療法科開設</p>   | <p>DMAI指定医療機関<br/>精神科救急システム基幹病院<br/>感染症科開設</p>   | <p>電子カルテ稼働開始<br/>旭中央病院再整備事業開始(2013年)</p>                             | <p>地域難病相談支援センターに指定<br/>構成市町合併により旭市立病院に<br/>ISO9001認証取得(以降更新継続中)</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災(M9.0)</li> <li>● 福島第一原発事故</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改正臓器移植法が全面施行</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日経平均株価終値が史上最安値(7054円98銭)</li> <li>● 新型インフルエンザ(A/H1N1)が世界的に流行</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長寿医療制度(後期高齢者医療制度)開始</li> <li>● 特定健診(メタボ健診)・保健指導開始</li> <li>● リーマンショック</li> <li>● 銚子市立総合病院休止(2010年再開)</li> <li>● 日本の人口が1億2800万人をピークに減少に転じる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● がん対策基本法施行</li> <li>● 日本が「超高齢社会」(高齢化率21%以上)に</li> <li>● 第5次医療法改正施行: 医療法人制度改革等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 診療報酬が過去最大のマイナス改定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人情報保護法全面施行</li> <li>● 一市三町(旭市・飯岡町・海上町・干潟町)が合併し旭市に</li> <li>● 合計特殊出生率が過去最低に(1.26)</li> </ul> |
| 吉田 象二  |  |  |   |  | 村上 信乃  |   |
| 吉田 象二  |  |  |   |  | 村上 信乃  |   |
| 956(精神30床減)  |  |  |   |  | 986<br>(一般15床増)  | 971(一般15床増)   |



2011年3月25日、12階建の新本館が竣工  
3月11日の東日本大震災では患者さんに引渡し前の本館へ一時避難していただき、安全を確保(写真右)



連携医療機関と定期的な懇談会・研修会を開催



地域医療連携センター(2号館1F)



第3代病院長  
事業管理者  
吉田 象二

### 新本館竣工

#### 一機能的で災害にも強い安全で安心な病院へ

本院の歴史に残る大事業として2011年の新本館竣工を柱とする「再整備事業」(2006～2013年)があります。患者動線にあわせた診療機能の再編成、療養環境の充実に加え外来専用の化学療法センター新設や手術室増室、最新設備・機器の導入等により地域の基幹病院としての機能が大きく向上。また、建物の免震耐震化、自家発電機能の強化、地下水の浄化利用の整備などにより、大規模災害発生時にも平時に近いレベルでの医療提供が可能になりました。



2008年 全景

### 病院完結型医療から “地域連携”の時代へ

高齢化に伴い慢性疾患や複数の病気を抱えながら生活を送る患者さんが増加。疾病構造の変化に伴い、求められる医療のかたちも従来の治すことを主眼とした病院完結型医療から、「地域全体」で「治し支える」ことを目指す医療へと変化していきます。本院では2004年に医療・介護連携の中心的役割を担う部署として地域医療連携センターが開設されました。

| 成熟期  |  |   |  |  |  |                            |
|--|--|---|--|--|--|----------------------------|
| 2017   | 2016   | 2015  | 2014   | 2013   | 2012   | 西暦                         |
| 平成29   | 平成28   | 平成27  | 平成26   | 平成25   | 平成24   | 和暦                         |
| 地域医療支援病院認定<br>第56回全国自治体病院学会長(幕張メッセ)・・・過去最多演題・参加数 | 地方独立行政法人に移行<br>DPCⅡ群(現・特定病院群)病院に指定<br>周術期センター運用開始<br>第1回病院まつり<br>「人間ドック健診施設機能評価」認定 | 乳腺外科開設<br>院外処方開始<br>認知症疾患医療センターに指定<br>看護師の特定行為研修修了当院第1号(全国期生) 看 | MRIT(強度変調放射線治療)開始<br>中央手術室での日帰り手術開始<br>世界糖尿病デーに合わせたブルーライトアップを市内で実施 | ロボット支援手術を導入<br>健康づくり出前講座(二次医療圏対象)開始<br>高校生向け職業体験プログラム開始<br>薬剤師の全病棟への配置開始 | 地域医療支援センター開設<br>こころの医療センター開設<br>診療技術部設置(医療技術職4部門・11部署から構成) | 旭中央病院の出来事                  |
|  | ● 全国がん登録開始<br>● 熊本地震(M6.5、M7.3)<br>● 国内の出生数が初の100万人割れ                              | ● 関東・東北豪雨災害<br>● 第7次医療法改正施行：地域医療連携推進法人制度の創設、医療法人制度の見直し等         | ● 消費税8%へ引き上げ<br>● 医療介護総合確保推進法<br>● 第6次医療法改正施行：病床機能報告制度と地域医療構想の策定等  | ● 社会保障制度改革国民会議報告書とりまとめ：全世代型社会保障、医療・介護提供体制改革、地域包括ケアシステムの構築などを提言           | ● MERSコロナウイルスによる感染症(中東呼吸器症候群)がサウジアラビアなどで確認                 | ● 日本・世界の出来事<br>● 医療に関する出来事 |
| 吉田 象二(2016年～理事長)                                 |  |   |  |  |  | 事業管理者/理事長                  |
| 田中 信孝  |  |   |  |  | 吉田 象二  | 病院長                        |
| 989(一般33床増/一般763・感染6・精神220)                      |  |   |  |  |  | 病床数                        |



地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院設立(2016年)



初代理事長  
吉田 象二



循環器内科・心臓外科・多職種で構成されるハートチーム



第4代病院長  
田中信孝

### 地方独立行政法人に移行

当院は2016年4月、旭市の設立した地方独立行政法人へ移行。これにより病院運営における自主性が強化され、専門医増員や高度医療機器・設備導入など医療ニーズや外部環境の変化により機動的かつ柔軟に対応することが可能になりました。



2015年 全景

### チーム医療の推進

#### 一旭中央病院の高度医療を支えるスペシャリストたち

医療が急速に進歩・高度化する中で当院の使命である高度専門医療・救急医療を遂行していくこと、退院後の生活まで見据えた患者支援が求められる中で多職種の連携＝「チーム医療」の重要性が高まっています。当院では2012年、医師、看護師および薬剤師以外の医療技術職13職種を統合して「診療技術部(現・診療技術局)」が発足。国家資格等を有する300名余りの技術職が所属し、当院のチーム医療に大きく貢献しています。

## 2025年、その先に向けた新たな地域医療展開の時期

| 2023   | 2022  | 2021  | 2020   | 2019   | 2018  |
|--|---|---|--|--|---|
| 令和5  | 令和4   | 令和3   | 令和2  | 令和元<br>平成31  | 平成30  |
| <p><b>開院70周年</b>(職員数2,237人、うち医師293人)</p>                                 | <p>HCU(高度治療室)開設</p>   | <p>がんゲノム医療連携病院<br/>旭中央病院附属病理診断科診療所開設(東京都文京区本郷)<br/>遺伝子診療科開設</p>   | <p>SCU(脳卒中集中治療室)開設<br/>予防医学研究センター(健診センターより名称変更)<br/>千葉県高次脳機能障害支援拠点病院に指定</p>                  | <p>遠隔病理診断センター開設<br/>入院・手術サポートセンター(PFMセンター)発足<br/>TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)開始(ハートチーム)<br/>国のEPA(経済連携協定)に基づくベトナムからの看護師候補者を初めて受け入れ<br/>房総半島台風で当院にDMAT活動拠点本部が設置<br/>ドクターカー運用開始</p>             | <p><b>開院65周年</b>(職員数2,091人、うち医師253人)</p>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「団塊の世代」が75歳以上に到達し始める</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯活躍のまち「みらいあさひ」がまちはびらき</li> <li>● 国内の出生数が初の80万人割れ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京オリンピックパラリンピックが1年延期を経て開催</li> <li>● マイナ保険証、本格運用を開始</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で大流行。多方面に大きな影響</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 働き方改革関連法が順次スタート</li> <li>● 明仁天皇が退位</li> <li>● 徳仁天皇が即位。「令和」に改元</li> <li>● 「令和元年房総半島台風」(台風第15号)が上陸</li> <li>● 消費税10%に引き上げ。軽減税率制度導入</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新専門医制度が開始</li> <li>● 大阪北部地震(M6.1)</li> <li>● 第8次医療法改正施行：特定機能病院のガバナンス改革に関する規定創設等</li> </ul> |
| 吉田 象二  |   |   |  |  |   |
| 野村 幸博  |   |   |  |  |   |
| 989(一般763・感染6・精神220)   |   |   |  |  |   |



旭市民の新型コロナワクチン接種に協力  
(2021年8月～、当院大講堂)



東京都文京区本郷に附属病理診断科診療所を開設(2021年)  
最新のデジタル技術を活用し本院の病理診断を都内から支援



さらなる救命率向上を目指してドクターカーを導入(2019年)



入院・手術サポートセンター(PFMセンター)発足(2019年)  
入院前からの患者支援を強化



第5代病院長  
野村幸博

### これまでこれからも 地域の安心のシンボルとして

時代ごとに遭遇する難局を乗り越え、全国を代表する自治体病院に成長した当院ですが、その原点であり70年間変わらぬ使命は「地域住民の健康を守ること」。当院はこれからも皆さまが住み慣れた場所で安心して生活が送れるよう医療・介護・行政関係者・住民の皆さまと力を合わせ進んでまいります。

### 新型コロナウイルスパンデミック禍の奮闘

当院で初めて新型コロナの陽性患者さんを受け入れたのは流行最初期の2020年2月。以降2023年5月時点までに重症者を含む約1100人の入院患者さんを受け入れてきました。また、集団感染の発生した近隣施設等への医師・看護師派遣、得られた知見の地域への共有(連携会議)等、「地域全体を感染から守るための活動」にも注力してきました。



# 明日の地域医療を担う 医療従事者座談会

## 医師編

司会(編集事務局) 開院70周年を記念して医学部卒業後15年前後の方々にお集まりいただき、「明日の地域医療を担う医療従事者座談会〜医師編〜」を企画しました。現在の仕事の内容や医療従事者としてのやりがい、今後の目標など、幅広くお話を伺えればと思います。早速ですが、まず、皆さんの所属している診療科の紹介をお願いします。

### 消化器内科 宮川明祐医師(以下、宮川)

消化器内科は文字通り消化器の病気を扱う科です。消化器とは、口、食道、胃、小腸、大腸、肛門まで続く消化管と、消化液を分泌する肝臓、胆嚢、膵臓からなります。食べる、消化する、栄養を吸収する、老廃物を排泄することを担う臓器であり、口から肛門までの消化管は約10メートルもあるため、病気が多く、現に院内で患者さんが最も多い科です。もちろんがんを扱うことは多いのですが、消化管出血や胆管炎などの急性期疾患、炎症性腸疾患などの難病や肝炎など、多岐に渡る分野を網羅しています。

### 循環器内科 早川直樹医師(以下、早川)

循環器内科は心臓、血管病の診断から治療を担当する科です。高血圧などからはじまり、狭心症・心筋梗塞、大

動脈解離、肺血栓塞栓症(静脈血栓塞栓症)といった緊急疾患、また心房細動に代表される不整脈疾患、各種弁膜症、心筋症、そして現在社会問題にもなっている心不全といった病態を担当しています。また下肢閉塞性動脈疾患に代表される血管疾患も扱っています。

昨年度末、当院の循環器内科を長年支えてこられた神田順二副院長が退任され、榎田俊二新主任部長のもと、総勢20名体制で診療を行っています。診療内容は各種検査や診断から薬物療法はもちろんのこと、各種カテーテル治療も非常に多く行っており、虚血性心疾患に対するカテーテル治療(PCI)、不整脈は宮地浩太郎部長を中心にカテーテルアブレーション治療、ペースメーカー関連など非常にたくさん治療を行っています。また最近ではTAVI(タビ)、経カテーテル大動脈弁留置術)やMitraClip(マイトラクリップ、経皮的僧帽弁クリップ術)に代表される弁膜症のカテーテル治療や、左心耳閉鎖デバイス植え込みなども積極的にを行っています。私が担当している末梢血管疾患に対するカテーテル治療(EVT)も年々増えてきており、現在は年間500件を超える症例を治療しています。こちらは後

述しますが、国内でも有数の症例数であり、多くの多施設共同研究、学会論文発表、カテーテル治療ワークショップ、ウェブライブなどの発信を行っています。

### 総合診療内科 染小英弘医師(以下、

### 染小)

「総合診療内科」という言葉はあまり聞き慣れないかもしれませんが。ここで言う「総合」は、医療とはかけ離れた世界に思えますが、「総合格闘技」という言葉で使われる「ニュアンスに近い」と思います。「総合格闘技」の「総合」とは、「あらゆる「すべての」といった意味を持ちます。ですので、総合診療内科というのは、大雑把に言ってしまうと「すべてを診療する内科」ということになり、患者さんが脳の病気を抱えているように、心臓の病気があるのが胃腸の病気があるのが全て診療するということなのです。

しかし、現代医療においては多くの領域で専門科の医師達が活躍されています。実際、当院でもあらゆる専門科が網羅されています。総合診療内科も心臓の病気は見ますが、心臓を専門とする医師には当然かありません。他の分野についても同様です。では、総合診療内科が存在する意義はどこにあるのか。





娠、外国籍妊婦といった特定妊婦など、多くのハイリスク妊娠を扱っています。

また子宮頸癌、体癌や卵巣癌などの婦人科悪性腫瘍に対しての手術、抗癌剤、放射線治療も多数行っています。

さらに低侵襲手術として腹腔鏡やロボット手術、人工授精を含めた一般不妊治療、更年期障害や骨盤臓器脱の薬物および外科治療など産婦人科の幅広い分野を網羅した診療をしています。

**司会** 地域の中で、それぞれの診療科が担っている役割について、教えてください。

**宮川** 消化器内科は扱っている臓器が多いため、大学病院やがんセンターでは上部消化管(食道・胃・十二指腸)、下部消化管(十二指腸以外の小腸・大腸)、肝臓、胆膵(たんすい)に細分化されており、個々の消化器内科医が専門分野のみ診療を行うことが多いです。しかし、当院は地域医療を担う基幹病院であるため、当科のすべての医師が専門分野だけでなく消化器疾患全般を扱っています。救急病院であるため急性期の生死に関わる消化管出血や胆管炎への対応はもちろんのこと、癌治療や内視鏡治療をはじめとする専門的な分野も積極的に診療し

ています。

**早川** 循環器内科は当地域の心血管疾患の最後の砦であり、24時間、365日どのような患者さんでも受け入れています。

**染小** 当院が立地する香取海浜地域は、千葉県の中でも高齢化が進んでいます。先ほど診療科の紹介でお話したような、複数の領域にまたがる疾患を持つ患者さんや、精密検査をしても正体がわからない疾患を持つ患者さんが多くいらっしゃいます。

高度な医療機器と、士気の高い看護士さんや薬剤師さんなどのメディカルスタッフ、そして経験豊富な専門科の医師達がいつでも助けてくれるという恵まれた環境の中で、このような、他の病院では対応が難しい患者さんを、1人1人丁寧に診療し、再び地域へと元気に帰っていくお手伝いをするのが、総合診療内科の地域における役割です。

**伊達** 県東部唯一の循環器センターとして、心臓外科は循環器内科と密接に連携して成人循環器疾患全般の診療を行っています。

**古賀** 産婦人科は地域周産期母子医療センターとして、周辺医療機関からハイリスク妊婦の外来紹介および母体搬

送を受け入れています。また、地域がん診療連携拠点病院として治療だけでなく、がんパネル検査などの遺伝子検査にも対応しています。

**司会** 各診療科におけるご自身の担当分野・役割などについて、教えてください。

**宮川** 早期癌の内視鏡手術を専門にしています【図1】。内視鏡手術はここ数年で大きな進歩を遂げており、かつては全身麻酔下で外科手術が必要だった疾患が内視鏡にて無麻酔で治療できるようになってきています。当院の特徴上、消化器内科医としてすべての分野で平均以上の医療を提供したいと努力していますが、少なくとも内視鏡手術をはじめめとする内視鏡治療の分野に関しては、大学病院やがんセンターと遜色ない医療水準を当地の患者さんに提供することを目標に、日々努力しています。

**早川** 本年度から循環器内科部長、EVTセンター長を務めさせていただいています。虚血性心疾患、末梢血管疾患のテーテル治療を専門分野としていますが、近年ではEVTを主任として担当しており、各主要学会・ライブデモンストラーションにおいてもファカル



【図1】内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

ティ、プログラム委員、ライブデモンストラーション術者など重責をいただける立場になることができます【図2】。関連して現在多くの多施設共同研究、各学会・研究会への発信、治療技術の指導(当院への見学や他院への出張指導)、ウェブライブの発信、論文執筆などで活動しています。こういった活動を含めて多施設の先生方と当院スタッフの交流が生まれ、当院の治療レベルも飛躍的に向上してきたという実感があります。

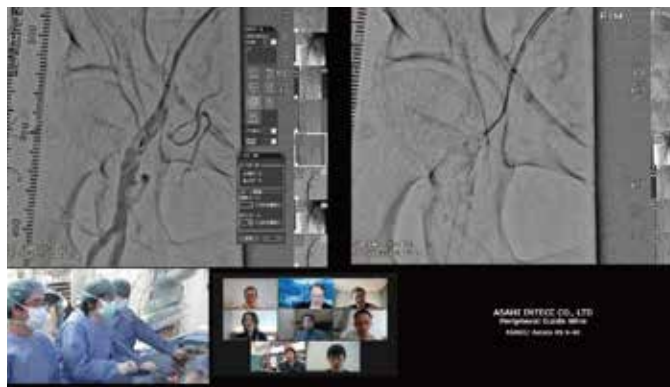
また同時に多職種からなるフットケアチームの長を務めさせていただいて





【図2】ライブデモンストレーションの術者を務める早川医師

(左)LINC (LEIPZIG INTERVENTIONAL COURSE):2020年1月・ドイツ (右)Kokura Live:2023年5月・福岡県北九州市小倉記念病院



【図3】病棟で研修医を指導

います。この分野では形成外科が創傷治療の中心となりますが、各部門の橋渡しが上手くできるということの意味で、比較的長年在籍させていただいていることもあり、務めさせていただいています。

**染小** 現在総合診療内科はチーム主治医制をとっており、2チームに分かれています。私はそのうちの一つのチームのリーダーのような役割を果たしています。患者さんの診療にあたりつつ、若い医師達の指導をしたり【図3】、レクチャーの日程を決めたりしています。

変わったところでは、当院では医学生向けのオンラインレクチャーを定期的で開催していますが、その際に技術面



【図4】心臓外科手術

のサポートをしています。

**伊達** 心臓外科で手術【図4】、術前術後管理全般を担当しています。胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療に関しては、これまで緊急対応が困難な面がありました。関連部署と協議しながらよりスムーズに対応できるように現在整備を続けています。また、私自身は心臓外科医に加えて集中治療医としての役割がありますので、術後管理において最新の知見を日常診療に生かせるよう研鑽を積んでいます。

**古賀** 私は周産期を専門としています【図5】、週2回婦人科外来も行い、がん診療、手術や不妊治療などにも関わらせていただいています。また院内の家



【図6】おひさまテラス(イオンタウン旭2F)で行われた子ども向けイベントに家族支援チームとして参加(2023年8月)



【図5】妊婦健診

族支援チーム(FAST: Family Support Team)に参加【図6】、特定妊婦の支援の他、小児科の仙田昌義部長、荒

川真梨子主任医員と性虐待児の診察を行っています。初期研修医の産婦人科研修の指導医も担当しています。

司会 宮川医師、早川医師、染小医師は  
昨年度の「グランドAGHアワード」  
【注1】【図7】学術部門で表彰されました。

宮川 内容は割愛しますが、当院の十二指腸腫瘍の内視鏡治療成績を欧州消化器内視鏡学会の公式雑誌である“Endoscopy”に発表しました。日々の業務に忙殺されてしまうと、なんとなく毎日が過ぎていってしまうのですが、論文を書く作業を通して、今までやってきた治療を反省することは今後の治療に活かす上でも大切なことだと考えています。また、論文は掲載される前に査読という外部の専門家による厳しい評価を受けなければなりません。論文は多くの修正を経て運が良ければようやく掲載されるわけですが、上の先生から指導いただける機会の少なくなってくる私くらいの年次になると、この厳しい査読は自分の医療を顧みる上で、何物にも代えがたい貴重な機会となっています。患者さんの診療を行うために必ずしも論文を書く必要性

## 第10回 グランドAGHアワード 学術部門

### 最優秀賞：

論文名:A feasibility study comparing gel immersion endoscopic resection and underwater endoscopic mucosal resection for superficial nonampullary duodenal epithelial tumors.

掲載誌:Endoscopy. 2023 Mar;55(3):261-266.

診療局 消化器内科 宮川 明祐

### 優秀賞：

論文名:Clinical outcome of drug-coated balloons in patients with femoropopliteal chronic total occlusive lesions: results from the multicenter EAGLE study.

掲載誌:CVIR Endovascular. 2022 Oct 6;5(1):51.

診療局 循環器内科 早川 直樹

### 優秀賞：

論文名:Diagnostic accuracy of rapid antigen tests in cerebrospinal fluid for pneumococcal meningitis: a systematic review and meta-analysis.

掲載誌:Clinical Microbiology and Infection. 2023 Mar;29(3):310-319.

診療局 総合診療内科 染小 英弘

※優秀賞は他に2名が受賞



【図7】第10回グランドAGHアワード表彰式(2023年3月)

【注1】旭中央病院の職員表彰制度。当院を輝かせ、名声を高めるとともに、医療の質向上に特に貢献した活動を表彰するもので、学術部門、病院の質部門の2部門から構成されます。

はないと思いますが、自分の治療を振り返る大切な時間と位置づけ、論文を積極的に書くようにしています。  
早川 毎年このAGHアワードで表彰いただけることをとても光栄に、かつ学術活動に対するモチベーションとして感じていました。同期の宮川医師と毎年



のように受賞できていることは、お互いの臨床や研究に対するモチベーションであると同時に、全国トップレベルの施設に対する我々地域病院からの挑戦でもあると思っており、とてもいい目標になっています。今後も毎年エントリーできるように努めたいと思っています。

**染小** 当院に着任して、様々な刺激を受けましたが、特に衝撃を受けたのは、まだ医師になって2年目の研修医連が、自身が臨床を行う中で抱いた疑問を、研究という形で解消していることでした。私自身も研究を行いたいと思いい、臨床研究をサポートしてくれるグループと出会い、そこで指導を受けながら1本の論文を書き上げました。タイトルの日本語訳は「肺炎球菌性髄膜炎に対する髄液中抗原検査の系統的レビューとメタアナリシス」となります。系統的レビューとは、同じテーマで行われた過去の研究をまとめて新たなエビデンスを作り出すという研究方法です。古今東西の研究をくまなく集める必要があるのですが、ここで、当院の充実した図書室機能に大いに助けられました。そして、運よく感染症分野の有名雑誌に掲載され、病院から賞をいただくことができました。今回の研究

を通して、当院は臨床や教育だけでなく、研究の実践においても優れた環境を有していることを改めて感じました。今後またゆまづ努力を続けたいと思います。

**司会** 皆さんにとって「旭中央病院」とはどのような存在でしょうか？

**宮川** 近隣に他に大病院がないこともあり、患者さんからの信頼を切実に感じるため、責任と同時にやりがいのある病院です。患者さんからいつも勉強させてもらっているという気持ちでいっぱいです。

**早川** 医師人生の最大の転機となった病院です。正直な話若手のころはいわゆるhigh volume centerと言われるカテーテル治療有名病院に入り研鑽を積みたいと考えていました。しかし当院で働いていくと地域で本当に困っている患者さんたちに必要な医療を提供する、何とかして都心部にいかなくても最高の医療を提供できないか、という正に“real fight”(実戦)の連続を経験することができ、結果として気が付けばかつて憧れていた施設と肩を並べて闘えるようになってきつつあります。地域の公立病院からも熱意次第でどう

ともなる、という経験をさせていたでき、いまでは自分にとって最高に愛着のある家、のような存在です。

**染小** 私が当院に着任したのは既に内科の専門医を取得した後で、医師として最低限のトレーニングは完了している状態でした。しかし、当院に着任して、高度な臨床、熱意の高い研修医連、そして充実した研究環境に触れる中で、臨床、教育、研究と医師にとって重要な領域すべての研鑽を積むことができました。一言でまとめるなら、「恩師」ということになると思います。

**伊達** 東京大学心臓外科の医局人事で当院へ赴任しました。所属医局員の多くが当院へ赴任し、様々な話は聞いており一度は勤務したかった病院でした。最初に赴任した時期は、大学院の博士論文を仕上げなければならぬ時期で、大変なこともありましたが、地域の中核病院として様々な症例が経験できること、寮から病院までが徒歩数分で診療や学術活動に没頭できることなど非常に充実した時間を過ごすことができます。心身が疲弊しているなと感じたときは、車で数分のところに温泉があり最高のストレス発散となっています。

は、産婦人科の周産期分野に興味があったため周産期医療をしっかりと学べる施設であること、病院見学をさせていただいたときのスタッフの方々の温かさ、実家が東京のため隣県であることなどでした。当科の小林康祐主任部長のご指導を受け、多くの診療経験を積み、産婦人科専門医の資格を取得することができました。

**古賀** 旭中央病院に入職したきっかけは、出身大学が沖縄だったこともあり、専門医取得後は沖縄県石垣市にある沖縄県立八重山病院へ転職しましたが、旭で学んだことは大きな力になりました。特に緊急性の高い疾患に関して多くの経験を積めていたことは、患者さんを他の病院に搬送しづらい離島という環境下で大変役に立ちました。八重山病院赴任中に自身に足りないと思われる手術手技などを学ぶために1年弱ほど国内留学という形で旭へ戻らせていただけたことも感謝しています。

産婦人科のサブスペシャリティとして周産期専門医を取得したいと思ったとき、やはり旭中央病院で勉強したいという思いがあり、再度受け入れていただけることとなりました。自身の専門として周産期分野を学ぶことはもちろん



ん、石垣では行っていなかった腹腔鏡下子宮全摘術や遺伝子診療を含めたがん治療などに触れることができるのも魅力です。さらに私が以前入職していた時から当院で勤めていらっしゃるスタッフも多く、色々お声かけいただけるのは大変うれしいです。

**司会** 結びに「10年後のありたい姿」について、聞かせてください。

**宮川** ちょうご初期研修を終え、消化器内科医として何もわからなかった時期から現在に至るまで当院を受診される患者さんから多くを学ばせていただきました。若い頃は私が患者さんに貢献するといふよりはむしろ、患者さんに教えてもらうことばかりの毎日でした。経験を積むことで、ここ数年は少しずつ患者さんに還元できるようになってきたことを実感し始めています。これからの10年は、私を医師として成長させてくれた当地のみなさんへ恩返しする番だと思っています。

**早川** 10年後はちょうご術者としてのDeanをむかえるころだと思っております。当院が本当の意味で国内を代表する循環器の施設になっていたらうれしいですし、EVTセンターとしてもその

時代の最高のレベルを提供できるよう努めたいと思います。当院が学会公式のライブデモンストラーションを行う施設になっていけば夢のようです。そのためには多くの若手が循環器に入ってくれて、彼らも同時に各分野で活躍してもらえるよう、教育にも力を入れていきたいと思っています。地域医療への貢献という意味では、スタッフの増員とそれに伴う近隣病院への出向・お手伝い、というところに手が届いていけばいいと考えております。これはおそらく、医療崩壊の進む可能性のある当地域の医療をささえる力ギになると思っております。

**染小** 一見すると特定の専門分野を持たなさそうですが、実は総合診療科にも専門分野があります。先ほど挙げた診断学もそうですが、医学教育や医療安全、病院経営などの分野です。私自身は病院に入院した患者さんの診療に大きな関心を持っています。病院には様々な科があり、様々な疾患をもった方が入院されます。多くの方は予定された検査や治療を終えて予定通りに退院されますが、中には合併症を起こして入院が長引いたり、当初の予想とは違って悪い方向に病状が進むこともあります。

合併症は外来に通院して検査や治療を受ける中でも起きることはありますが、入院中の方はしばしば外来通院中の方より病状が重かったり、複雑だったりします。このような、入院患者さんに起こる合併症を「院内合併症」と言います。まだ日本では研究者が少なく、ほぼ未開拓の領域ですが、今後ますます社会の高齢化が進むにつれて大きくなってくる問題です。私は院内合併症の診断、治療、予防の技術を究め、総合診療医の存在意義を高めつつ、専門科の医師達がそれぞれ専門分野の検査、治療に専念できるような環境を作りたいと考えています。

**伊達** 心臓外科分野は他の分野と同様に次々と新しい医療機器が登場します。また外科医であっても大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術や、重症大動脈弁狭窄症（Aortic Aortic Stenosis）に対するTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）などカテーテル治療に精通することが一層求められていくと思います。より進歩する医療機器をしっかりと使いこなせるように、知識や技術をアップデートするよう研鑽を積んでいきたいと考えています。またこれまでの様々な医療現場での経験を次の世代へしっかりと伝えてい

きたいと思っています。

**古賀** 自身の専門領域である周産期医療だけでなく、産婦人科領域全般をしっかりと診療できる医師でありたいと思います。また医学的に妥当な診療を行うだけでなく、それぞれの患者さんの事情に沿った治療を提供できるようにになりたいです。周産期医療に従事する者として、この地域に生まれてきてくれる赤ちゃんとそのお母さんが妊娠中から安心して過ごせるように、医療的な支援だけでなく、他職種とも連携して社会的な支援も行っていきたいです。

現在携わらせていただいている性虐待児の診察についても継続していければと思っています。

**司会** 各診療科の中核として地域医療の充実に奮闘されている皆さんの思いが誌面を通じて地域の方々にも伝わるとを願って、座談会を終了させていただきます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。



お話：診療技術局 リハビリテーション科 副主査  
ひまた ともき  
 疋田 智之 理学療法士

### Q AYAおよびAYA世代のがんについて教えてください。

**A** AYAとは、アドレッセント Adolescent(思春期) & ヤング アダルト Young Adult(若年成人)の頭文字をとった略であり、15～39歳までのことを【AYA世代】といいます。また、思春期はA世代(15～19歳)、若年成人はYA世代(20～39歳)と区別されることもあります。このAYA世代は、多くの人にとって親からの自立、生活の中心が家庭や学校から社会での活動に移行するなど、役割が大きく変化していく時期となります。ライフステージが変化するこの時期は、就学・就労・恋愛・結婚・出産・子育てなど、様々なライフイベントを迎えることもあり、多くの悩みを抱えていることもこの世代の特徴の一つです【図1】。



【図1】AYA世代のライフステージ(例)

近年、このAYA世代のがん罹患率が増加傾向となっており、2017年の調査では年間約21,000人ががんと診断されています。主ながんの種類をみると、白血病やリンパ腫、脳腫瘍や甲状腺癌、乳癌や子宮頸癌などが多くなっています。わが国でも、がん対策推進基本計画が制定されており、このAYA世代がん患者に対する医療体制を構築し、ライフステージに合わせた支援を推進しています。

### Q AYA世代がん患者サポートチームについて教えてください。

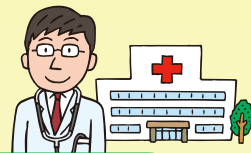
**A** 当院では、【AYA世代がん患者サポートチーム】が設置されていて、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、公認心理師など多職種で構成され、私も理学療法士として加わっています。サポートチームでは患者さんやご家族に対して、**苦痛緩和**(がんと診断されてからや治療中・後に起こりうる身体的・精神心理的・社会的苦痛、言葉では伝えられないようなこころの苦痛など)、**意思決定支援**(より納得のいく治療方針の相談など)、**就学・就労支援**(就学・就職時期と治療時期が重なることへの配慮、学校や職場との情報交換など)、**相談支援**(心理社会的な問題や子育て・教育の問題など)、**恋愛・セクシャリティに関する支援**(妊孕性温存に関する情報提供や性に関連するボディイメージの変化などへの支援)、**晩期合併症・後遺症などのフォローアップ**、**緩和ケア**(療養先の決定や病状に応じて適切な介護が受けられる対応など)その他に取り組んでいます。AYA世代がん患者さんやご家族が抱える多岐にわたる悩みに対して、一人一人に合わせた個別性の高い支援を心掛けています。

“今”の選択肢を大切にすることは、“未来”をよりよく、自分らしく過ごすためのきっかけとなります。お困りのこと、悩まれていることがありましたら、一人で抱え込まず、関わる医療スタッフやAYA世代がん患者サポートチームにご相談ください。皆様に寄り添い、AYA世代の成長する力を大切に支援していきたいと思っております。

\*お問い合わせ：担当医にご相談ください。

# ‘かかりつけ医’を持ちましょう ～連携医療機関のご紹介～

ここでは、当地域の‘かかりつけ医’として、皆さんの身近にある医療機関をご紹介します。



## 第33回 永木外科胃腸科医院 (茨城県神栖市)



- 所在地：茨城県神栖市矢田部2959-1
- 電話：0479-48-0211
- 診療科：内科、外科、皮膚科、小児科、整形外科

| 診療時間        | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 8:00～12:00  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × |
| 14:00～17:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × |

休診日：土曜午後、日曜、祝日



### 院長 ながき ひろかず 永木 弘和 先生 インタビュー

#### —歴史のある医院と伺いました。

当地がまだ無医地区だった1969(昭和44)年、町からの誘致に応じて私の父が開院したのが始まりです。当時は、胃潰瘍などは外科手術で治療していた時代です。当院にも入院設備があり、土曜日の午後に胃腸の手術などを院内で行っていました。現在は医療の進歩により内服薬で治療できる疾患が増えたこと、病診(病院・診療所間)連携の仕組みが確立されてきたことなどから、手術・入院の設備は持たず、外来診療を中心にかかりつけ医としての役割を担っています。一方で先代の頃より比重が大きくなっているのが在宅医療(訪問診療・往診)です。国も在宅での医療や看取りを推進していますし、地域の高齢化も進んでおり、ニーズの高さを実感しています。



永木 弘和 先生

#### —訪問診療では、実際に何人ぐらいの患者さんを診ていらっしゃるのですか。

定期的に訪問しているのは約100人で、ご自宅と施設が半々ぐらいです。普段は外来診療がありますので、訪問診療は昼休みの時間を充てたり、午後の外来終了後や土曜午後に伺うようにしています。実は今日もこの後(午後の外来後)、4件訪問予定なんですよ。

#### —外来診療と並行しながら100人も訪問診療を行われているとは驚きました。

訪問先の患者さんから「先生の顔を見ると元気になる」と言っていただけると大きなやりがいを感じますし、患者さんのご家族とお話をするのも楽しいです。長く地域に貢献できるように私自身の健康管理にも気を付けながら、今後もできる限り患者さんの要望に応えていきたいと思っています。

#### —旭中央病院にも多くの患者さんをご紹介いただいています。

紹介状を書く際は、患者さんに紹介先の希望を伺うのですが、実際旭中央病院を選ばれる方は多いです。また、緊急を要する患者さんの対応では救急外来にも大変お世話になっており、本日も脳出血疑いの患者さんを搬送させていただいたところでした。

#### —お忙しい毎日の中、お休みにはどのようにリフレッシュされていますか。

日曜日はなるべく外出して気分転換を図るようにしています。友人とゴルフをしたり、妻と一緒に都内に出かけることが多いですね。都内の美容室には隔週で通っています。



健康寿命を延ばすために

予防医学 ~その3~ 病気の原因

はしもと なおたけ  
 予防医学研究センター長 橋本 尚武



そもそも病気はなぜおこるのでしょうか？

病気は、DNAと呼ばれる遺伝子やその修飾\*によって発症するものが多いとされています。遺伝子は父と母から受け継がれるもので、同じ作用の父由来と母由来の遺伝子が二種類あり、それぞれ多くに特色があり一人の個体の特徴になっています。その中で一つの遺伝子の異常で病気がおこるものは単一遺伝子優性遺伝、二つの遺伝子のうち二つとも異常で発症するものを劣性遺伝といいます。これらの遺伝子で病気を発症するには、一回目のお話のように個人のホルモンなどの反応の要因もあります。ただし、このような一つの遺伝子の異常によっておこる病気は少ないことがわかっています。今回は予防医学の面から、生殖細胞における遺伝的検査についてお話したいと思います。

最近、ゲノムワイド関連解析 (genome-wide association study) という、DNAマイクロアレイを用いて特定の疾患の患者さんと健常対象集団の間で統計学的に有意な頻度差を示す遺伝子の多型 (異常) を遺伝子全体にわたって検索する方法が進歩し、それによって多因子遺伝子リスクスコア (Polygenic Risk Score) というのもわかってきました。いくつかの候補遺伝子の異常は重なりその数が多ければ多いほど病気の発症が高くなり病気を予測できるという考えです。特に患者さんの数が多い病気はこれにあたります。たとえば心筋症などの循環器疾患、糖尿病、がんなどの多くはこれらに加えて環境因子が影響して発症するといわれています。たとえば、心臓の機能が低下し心不全になる拡張型心筋症などはいくつかの遺伝子異常が合わさって発症し、また個々で同じ遺伝子異常があっても不整脈だけか心不全になりやすいか様々で、また発症しない場合もあることがわかってきました (図1A)。

また、環境の影響も大きいとされています。環境因子の影響は、エピゲノムといって遺伝子の発現にかかわるヒストンというものの修飾\*によるとされています。遺伝子の異常が重なっていても必ず病気の発症をもたらすわけではなく、これらの遺伝子が働くか働かないかに関わる遺伝子は環境因子に強く影響されるために環境因子に気をつけて生活様式を考えていくという予防もできると考えられています (図1B)。最後に環境の影響という点から、腸内細菌の話をしたいと思います。実は胃や腸の中は体の外と通じています。最近の研究によっていろいろな病気と腸内細菌の関係がわかってきています。私たちの腸の中には500~1000種類、100~1000兆個の腸内細菌がいて腸内フローラを形成しています。肥満マウスの腸内細菌を他のマウスに移植すると肥満することが証明されました。すなわち人は、身体の外である腸から大きな影響を受けていることになるわけです。これらの腸内細菌が関連しているという報告のある病気は、増えてきています (表1)。腸内細菌は、食物繊維などから産生される酢酸、プロピオン酸、酪酸など短鎖脂肪酸を利用して、エネルギー産生の他に粘膜バリア機能の増強、抗炎症作用、免疫作用、抗がん作用などを発揮し、また吸収されて血液を通して多くの病気を防ぐ作用があることがわかってきています。すなわち、食習慣は病気を防ぐ非常に大切な環境のひとつなのです。

修飾\* : 修飾とは医学的には遺伝子のヒストンにメチル基などがついて遺伝子の働きを調節することです。

図1

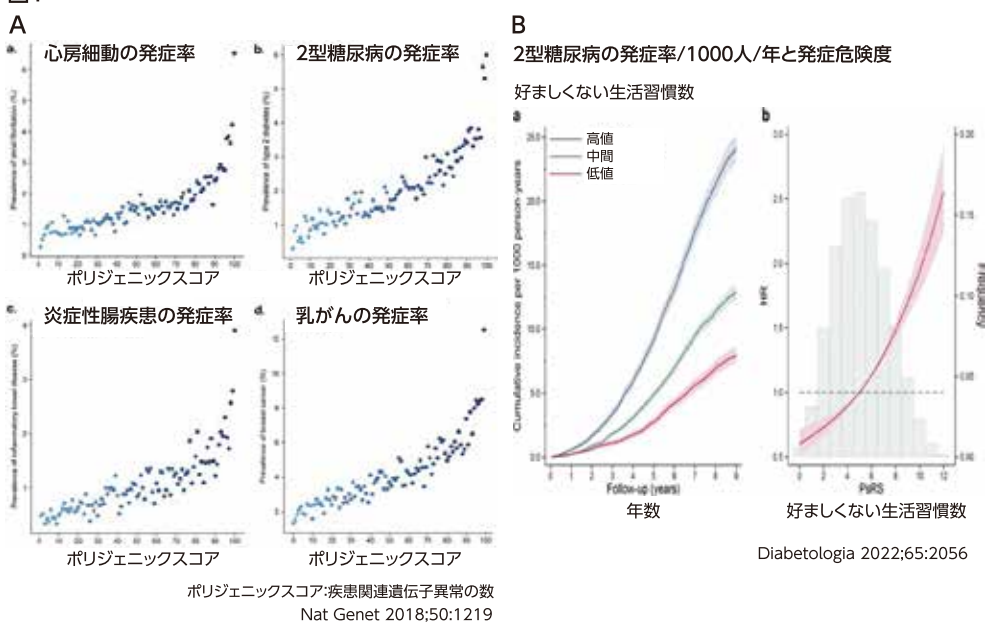


表1 腸内細菌と関係するとされる病気

- 肥満
- 糖尿病 (1型, 2型)
- 非アルコール性脂肪肝
- 炎症性腸疾患 (クローン病)
- 大腸がん
- 自己免疫疾患
- 精神疾患 (うつ病, パーキンソン病, 統合失調症など)
- 肥満関連腎臓病
- 心臓疾患, 動脈硬化
- サルコペニア (筋肉量の低下)

Frontiers in Cellular and Infection Microbiology 2021;11:625913などより

## 自治体立優良病院として表彰されました

地域医療の確保に重要な役割を果たし、かつ経営の健全性が確保されている優良病院であるとして、全国に900以上ある自治体病院のうち、当院を含めた7病院が「全国自治体病院開設者協議会長」と「全国自治体病院協議会長」から表彰されました。

当院は1986（昭和61）年、2011（平成23）年に続き3度目の受賞です。



尾身朝子総務副大臣（前列左から4番目）、小熊 豊全自病会長（前列右から4番目）との記念撮影

後列右から2番目 吉田理事長、同右端 野村病院長

## 開院70周年記念動画を制作しました

開院70周年を記念し、動画を制作しました。多くの職員、ボランティアの皆さんが出演していますので、ぜひご覧ください。

旭中央病院記念動画



「こんにちは」は当院ホームページでもご覧いただけます。▶



### 「こんにちは」へのご意見・ご感想をお寄せください

当広報誌へのご意見・ご感想は、病院内の「ご意見箱」、または広報患者相談課までお寄せください。  
(FAX: 0479-62-7690 / メール: kouhou@hospital.asahi.chiba.jp)

こんにちは 2023年11月  
vol.36

発行者：地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院  
発行責任者：野村 幸博  
医療監修：川副 泰成

地方独立行政法人  
総合病院 国保旭中央病院

千葉県旭市イ-1326番地  
☎(代)0479-63-8111 www.hospital.asahi.chiba.jp



病床数：989床 診療科数：40科 1日平均外来患者数：2,430人（2022年度）  
年間救急受診者数：44,365人（2022年度）  
年間中央手術室手術件数8,330件（2022年度）